

# 平成29年度全国学力・学習状況調査結果分析

## 1 調査内容

### ①教科に関する調査（国語、数学）

- ・国語A、数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語B、数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

### ②質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## 2 教科に関する調査結果の概要

	年度	本校
国語A	平成26年度	79.5
	平成27年度	77.2
	平成28年度	70.9
	平成29年度	<b>73</b>
国語B	平成26年度	57.5
	平成27年度	67
	平成28年度	63.9
	平成29年度	<b>67</b>
数学A	平成26年度	73.3
	平成27年度	67.3
	平成28年度	61.5
	平成29年度	<b>64</b>
数学B	平成26年度	67.5
	平成27年度	41.8
	平成28年度	38.1
	平成29年度	<b>47</b>

## 3 調査結果の詳細から顕著な項目を抜粋

### ・国語Aにおいて顕著な点

	年度	本校
話す聞く能力	平成28年度	65.6
	平成29年度	<b>68.8</b>
言語についての知識・理解	平成28年度	70.2
	平成29年度	<b>70.3</b>

### ・国語Bにおいて顕著な点

	年度	本校
関心・意欲・態度	平成28年度	50.0
	平成29年度	<b>47.9</b>
書く能力	平成28年度	63.9
	平成29年度	<b>53.1</b>

### ・数学Aにおいて顕著な点

	年度	本校
数学的な技能	平成28年度	66.4
	平成29年度	<b>68.3</b>
数量や図形などについての知識・理解	平成28年度	69.0
	平成29年度	<b>57.6</b>

### ・数学Bにおいて顕著な点

	年度	本校
数学的な見方・考え方	平成28年度	28.1
	平成29年度	<b>35.9</b>
数量や図形などについての知識・理解	平成28年度	40.6
	平成29年度	<b>78.1</b>

## 所見

◎小規模校における経年変化の傾向は参考にしがたい面はあるものの、総合的に学力低下傾向にあることは否めない。学校における学習状況、家庭状況、生徒意識等との関連を考察しつつ、状況に応じて効果的な指導のあり方を検討する必要がある。

◎国語では、特に「話す・聞く能力」は昨年度よりも少しポイントは上がった。しかし、活用のB問題では「書く能力」の活用において、昨年度よりポイントが下回る結果となり弱さが顕著になっている。また、その表現力の弱さから、教科における「関心・意欲・態度」も下がる傾向にある。

◎数学では、基本的な「数学的な技能」において平均的な力を持っていると思われる。しかし、「関数」や「資料の整理」の数量や図形などの知識・理解のポイントは、昨年度よりも下回っている。活用のB問題では昨年度より大きくポイントを上げる結果になっているが、数学的な見方・考え方においては、今年度も弱さが顕著になっている。

#### 4 質問紙調査の結果抜粋

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	年 度	本 校
	平成28年度	56.3
	平成29年度	65.6

自分には、よいところがあると思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	59.4
	平成29年度	62.5

将来の夢や目標を持っていますか。	年 度	本 校
	平成28年度	59.4
	平成29年度	62.5

家の人と学校での出来事について話をしますか。	年 度	本 校
	平成28年度	31.3
	平成29年度	28.1

学校に行くのは楽しいと思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	31.3
	平成29年度	25.0

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	78.1
	平成29年度	65.6

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	年 度	本 校
	平成28年度	59.4
	平成29年度	65.7

1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	46.9
	平成29年度	78.2

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。	年 度	本 校
	平成28年度	43.8
	平成29年度	25.1

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	46.9
	平成29年度	43.8

読書は好きですか。	年 度	本 校
	平成28年度	31.3
	平成29年度	21.9

国語の勉強は好きですか。	年 度	本 校
	平成28年度	40.6
	平成29年度	21.9

国語の勉強は大切だと思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	84.4
	平成29年度	75.0

数学の勉強は好きですか。	年 度	本 校
	平成28年度	43.7
	平成29年度	53.2

数学の勉強は大切だと思いますか。	年 度	本 校
	平成28年度	75.0
	平成29年度	68.8

### 所見と考察

- ◎基本的な生活習慣である、朝食・起床時間・就寝時間等の基本的な生活習慣の項目において、昨年度に引き続き低い値になっている。夜遅くまで起きている生活やSNSやゲームに費やす時間の増加が考えられる。この改善には家庭の協力が不可欠なので、今まで以上に保護者に働きかける必要がある。
- ◎物事の取り組みに対する達成感や、自分の良いところを認識する自尊感情は昨年度よりもポイントを上げる結果となっている。今後も引き続き、日々の生活の中で、生徒自身が責任持って選択、決定、実行する経験をさせ、達成感を味わうことができる計画を企画することが必要であると思われる。
- ◎将来の夢や目標を持っていると答えた生徒は昨年度より増えているものの、依然低い値である。キャリア教育をさらに体系的・系統的に取り組んでいくことが必要であると思われる。
- ◎「家族とのコミュニケーションの時間がとれている」と答えた生徒は、昨年度よりもさらには少なくなっている。学校便りやホームページの活用など開かれた学校づくりを行い、さらなる情報発信に努めていきたい。
- ◎「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒が昨年よりも減っている。また、学級集団の中で自分の考えや意見を出すことや、みんなで協力してやり遂げたりする達成感が、昨年度よりも希薄であるように思われる。いじめに対する理解度も昨年度よりもポイントが下回っている。日常生活において生徒が他者への思いやりを持って主体的に活動し、達成感を感じると同時に、「学校へ行くのが楽しい」と思えるような魅力ある場所にしていけることが必要である。
- ◎授業の学習内容において、生徒の間で話し合う活動を行ったと答えた生徒が昨年よりも増えた。授業中における、「言語活動の充実に向けた昨年度の課題」が改善しつつあるのではないかとと思われる。
- ◎読書に対する意識は低く、読書好きの傾向は昨年度より低下し、全く読書をしない生徒が60%を超えている。授業だけでなく、学校生活全般の中で読書を推進するための企画を積極的に行う必要がある。
- ◎教科の学習の意識は、『大切である』と考えているものの、『学習に対しての苦手意識』を強く感じている。また、学習した事柄が、『普段の生活や将来社会に出たときに生かし、役に立っている』という意識は低く、学んだことを活用しようとする意識も低い。学習活動における「言語活動」を意識はしているが、表現課題等の学力には未だ繋がっていないように思われる。今後、学習指導や授業方法などにおいてさらなる改善が必要であると思われる。

## 5 学習指導の指針

### 言語活動の充実

- 生徒が主体的に考える場面を設定し、考えたことを表現・交流する場面を設定し（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にした論議など）、言語活動を充実させる。
- 解き方の指導だけでなく、考え方を大切にした指導を企てる。
- 生徒が積極的に疑問を持つような問題提起を準備する。

### 学習時間の確保

- 授業時数を確保していく。
- 自らが計画・実践・検証・改善(PDCAサイクル)をもとにした家庭学習を生徒に取り組ませる。
- 教師自らが計画・実践・検証・改善(PDCAサイクル)をもとにした授業改善に取り組む。

### 今後求められる指導改善

- 各授業において、生徒に学習目標をわかりやすく示し、生徒の理解度や実現状況を常に把握しておく。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業を組み立て、生徒の学習意欲や学力向上に努める。
- 生徒に学習成果を実感させ、自尊意識を高めさせる授業を構築していく。
- 基礎学力を高めるために、昼時間に「学びタイム」を設定し、国語・数学・英語の3教科に絞った系統的な学習を進めていく。
- 図書室での読書活動を、週に1度、「学びタイム」の時間を利用して行う。読書記録をつけさせることで、読書習慣をつけるきっかけとする。